

い し づ ち

愛媛労災病院広報誌第26巻第3号

(通巻第117号)

2026年7月6日発行

発行人：院長 木戸健司

理 念

当院は働く人々のために、そして
地域の人々のために信頼される
医療を目指します

基本方針

1. 地域に密着した医療の確立
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に推進していくため、患者さんの基本的な『権利と責務』を、以下のよう宣言します。

【患者さんの権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質な医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利
- 4) 性別、年齢や障がいの状態によって差別されることなく、診療を受けることができる権利

【患者さんの責務】

- 1) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 2) 医療に積極的に取り組む義務
- 3) 快適な医療環境づくりに協力する義務

ふれあい看護週間行事

看護師長 平 山 由 実

5月12日は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日です。彼女の功績を称え、国際看護師協会では、この日を『看護の日』と定めており、5月12日を含む1週間を『看護週間』とし、全国で様々なイベントが催されています。

当院では、看護部・他部門の活動を紹介するパネルを展示し、5月15日(金)には、ふれあい看護週間イベントを開催しました。『肌の水分量測定』『10年後の骨がわかる問診』『はみがき相談』『生活習慣病予防に関する展示』『看護相談』を行い、外来通院している患者さんや家族のかた、地域の皆さんにお越しいただきました。『肌の水分量測定』では、数値を見て「潤っていてよかった～」「わっ乾燥している！」などと笑顔で話されたり、『10年後の骨がわかる問診』では、問診結果をもとに骨粗鬆症マネージャーから運動指導を受けたりと、患者さんや地域の皆さんと生活習慣や健康について一緒に考える機会となりました。7月17日(金)には、『高校生ふれあい看護体験』を開催する予定です。今後も、ふれあい看護週間では、疾病予防や健康増進に関する取り組みを行い、私たちの看護を地域に向けて発信していきたいと思っています。



電気生理検査でわかる神経の状態	2
最新型 血管内超音波 (IVUS) の紹介	3
消化器センター (外来)	3

愛媛労災病院 消化器センターの紹介	4
新規採用・転任者の紹介	4

電気生理検査でわかる神経の状態

整形外科医師 中 村 桃 子

「手がしびれる」「指先の感覚が鈍い」「物をつまみにくい」「足に力が入りにくい」などの症状があるとき、原因の一つとして神経の障害が考えられます。神経は、脳や脊髄からの命令を手足の筋肉へ伝えたり、皮膚の感覚を脳へ伝えたりする大切な通り道です。この神経の働きを客観的に調べる検査が、電気生理検査です。

電気生理検査では、皮膚の上から神経に弱い電気刺激を加え、刺激がどのくらいの速さで伝わるか、また反応の大きさがどの程度あるかを測定します。電気刺激と聞くと不安に感じる方もいますが、検査で使用する刺激は短時間で、体に大きな負担をかけるものではありません。神経の伝わりが遅くなっている場所や、反応が小さくなっているかを確認することで、神経がどこで、どの程度障害されているかを推測できます。

当院では主に、手根管症候群や肘部管症候群などの上肢の神経障害に対して電気生理検査を写真のような機械を使用して行っ

ています。手根管症候群は、手首のところで正中神経が圧迫される病気で、親指から薬指にかけてのしびれや、夜間のしびれ、細かい作業のしにくさなどがみられます。肘部管症候群は、肘の内側で尺骨神経が圧迫される病気で、小指や薬指のしびれ、手の筋肉のやせ、箸やボタン操作のしにくさなどが症状として現れます。

そのほか、脊髄から手足へ向かう神経の伝わりを評価する検査もあり、手足のしびれや脱力の原因は、手首や肘だけでなく、首や腰、脊髄などに隠れていることもあります。そのため、症状や診察所見に応じて、必要な検査を組み合わせることで評価しています。

また、当院では検査結果を治療方針の判断にも役立てています。たとえば手根管症候群では、症状だけでなく、神経伝導検査で神経の障害の程度を確認することで、保存治療か、手術を検討するかの参考になります。手術後にも再度検査を行うことで、症状の改善だけでは分かりにくい神経の回復過程を確認できる場合があります。

もちろん、電気生理検査だけですべてが分かるわけではなく、患者さんの症状、診察所見、画像検査、生活で困っていることなどを総合して診断し、治療方針を決めることが大切です。しかし、神経の状態を数値として確認できることは、患者さんに病状を説明するうえでも大きな助けになります。

しびれや力が入りにくさは、「年齢のせい」「少し様子をみよう」と思われがちな症状です。しかし、神経の圧迫が長く続くと、感覚の低下や筋力低下が残ることもあります。手足のしびれ、物を落としやすい、細かい作業がしにくいといった症状が続く場合は、早めに整形外科で相談していただければと思います。



最新型 血管内超音波 (IVUS) の紹介

臨床工学部 伊 藤 貴 洋

当院に導入されている、心臓のカテーテル治療（PCI）をサポートする最新の医療機器、「AVVIGO™+（アヴィゴ プラス）」についてご紹介します。

この装置は、血管の内側を詳しく映し出す「血管内超音波（IVUS）」の最新モデルです。最大の特徴は、AI（人工知能）による画像解析機能が

搭載されている点です。AIが血管の太さや病変の長さを瞬時に、かつ正確に計測するため、医師は自身の経験を基にどのように治療すべきかをよりの確に判断でき、患者さん一人ひとりの血管内治療に合わせた最適なバルーンやステントを選択することができます。また、従来型よりも画像が非常に鮮明なため、血管内部の細かな状態まで把握でき、より安全で質の高い治療が可能になりました。治療の効率も向上しており、治療時間の短縮など、お身体への負担軽減も期待できる先進的なシステムとなっております。当院では、スタッフ一同、万全の体制でサポートいたしますので、どうぞ安心して心臓カテーテル検査・治療をお受けください。



消化器センター（外来）

内視鏡技師 村 上 麻 美

消化器センターでは、内視鏡技師を4名配置し、専門的かつ高度な技術が提供できるよう努めており、上部・下部消化管内視鏡検査をはじめ、EMR（内視鏡的粘膜切除術）・ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）などの内視鏡治療に積極的に取り組んでいます。また、ESDでは、安全を考慮し、患者さんの負担軽減のためにも手術室で実施しています。

健診においても、上部内視鏡は鎮静下で対応

しています。患者さんからは「楽に検査が受けられてよかった」と好評で、不安や負担を軽減し検査を受けていただいています。2026年4月からは、健診での下部内視鏡検査も受付可能となりました。早期発見・早期治療に努め、精密検査から治療、術後フォローまで丁寧に対応し、安全・安楽に検査・治療が受けられるよう取り組んでいます。



愛媛労災病院 消化器センターの紹介

消化器センター長 森 宏 仁

愛媛労災病院 消化器センターは、消化器疾患に対する高度で安全な内視鏡診療を提供することを目的として、愛媛大学第三内科 先進消化器内視鏡開学講座と連携し、診断から治療まで一貫した専門医療体制を整えております。森宏仁、國分勝仁、佐藤真、小林梨江の主に4名で上部・下部消化管内視鏡検査をはじめ、胆膵内視鏡（ERCP）など専門性の高い検査・治療を積極的に行っております。特に、早期消化器癌に対する全身麻酔下・内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や将来的には内視鏡的全層切除術（EFTR）などの低侵襲治療に力を入れており、患者さんの身体的負担軽減と治療成績向上を目指しております。

また、近年では特に難易度が高いとされているESD切除において、愛媛大学大学院医学系研究科 先進消化器内視鏡開学講座と内視鏡デバイス開発や新規トラクション法、内視鏡縫合技術の研究開発にも積極的に取り組み、より安全かつ効率的な内視鏡治療の確立を推進しております。特に先進的臨床技術の内、当院では内視鏡的・縫合術を得意分野としており、緊急時の穿孔症例にも迅速な内視鏡縫合装置を用いて消化管内からの縫合も行っており、その閉鎖率はほぼ100%を達成しています（写真）。そのため、当院では消化器センターと手術部がすぐ横に隣接する体制にあり、全身麻酔下・内視鏡縫

合術が可能となっています。健診内視鏡にも力を入れており、的確な診断により早期に消化管癌を発見し、迅速に高度ESD治療で切除するように努めています。

学術面では、国内外の学会発表や論文発信を通じて、新たな知見や技術を世界へ発信し、国際的な内視鏡医療の発展にも貢献しております。

安全管理にも重点を置き、内視鏡洗浄・消毒については各種ガイドラインに準拠した厳格な管理体制を整備しております。患者さんに安心して検査・治療を受けていただけるよう、鎮静下内視鏡や苦痛軽減にも配慮し、質の高い医療の提供に努めております。

さらに、次世代を担う若手内視鏡医の育成にも力を注いでおります。実践的な教育環境のもとで高度手技の習得支援を行い、臨床・研究の両面から内視鏡医学の発展を支える人材育成を目指しております。地域医療機関との連携を大切にしながら、今後も先進的かつ信頼される内視鏡医療の提供に尽力してまいります。



新規採用・転任者の紹介

今年度も医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、事務職員に新しいメンバーが加わりましたので、新たな力とともに、より質の高

い医療に取り組んでいきます。

また、2026年5月より愛媛県で初めて地域包括医療病棟を導入しました。



入院医療の体制がさらに充実しこれまで以上に地域の方々に寄り添った医療を提供してまいりますので、今後とも愛媛労災病院をよろしくお願いいたします。

広報誌編集メンバー

委員長：福井副院長

委員：篠原放射線科部長、岳田看護副部長、石原看護師長、

高橋看護師長補佐、園部薬剤師、藤田作業療法士、後藤診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、村上管理栄養士、稲富総務課長、曾我部課員、丸山課員、佐藤課員、池上課員